

家庭菜園の未経験者が地域の人々と支え合いながら、
育て続けることを支援するツール。

土と光とひとつづくり

貴船千紘 / 山崎晃弘

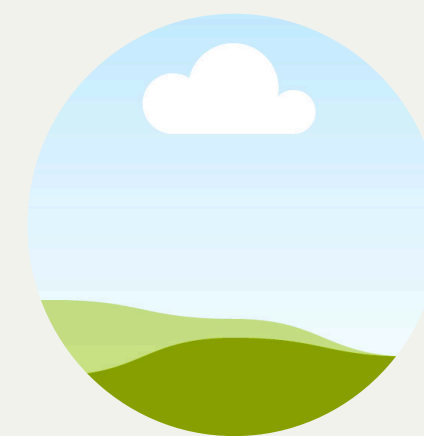
土と光とひとづくり



貴船千紘

*企画

山口大学工学部循環環境工学科 2年



山崎晃弘

*開発



スライドの目次

- 01 このアプリについて
- 02 着想の原点
- 03 問題提起
- 04 機能紹介
- 05 利用の流れ
- 06 最後に ーアプリが目指す形ー

01.このアプリについて

家庭菜園がはじめての方や、子どもと育てたいご家庭へ。 地域とつながる家庭菜園支援アプリ



このアプリは
「**支え合いながら、育て続ける**」
をコンセプトに家庭菜園未経験の方や
子どもと一緒に野菜を育てたいご家庭
を支援します。

地域の人とのつながりを通して、
継続的にお世話が続けられる仕組みを
提供します。

02.着想の原点

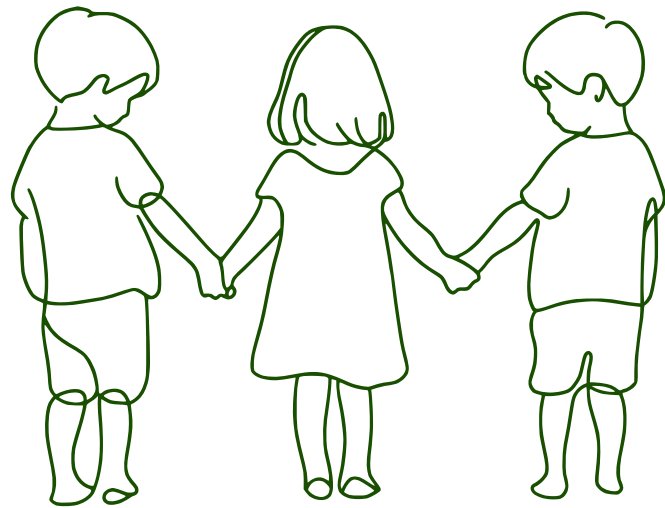
着想の原点 —自身の経験より—

- 幼少期に、農作業を身近に経験できたことが良い記憶として残っている
- その体験を子どもたちにも届けたいと思った
- 現在は、育てる判断や管理を大人が担う負担が大きいと感じている

03.問題提起

想定ユーザー

子どもがいる家庭



食育や情操教育のために畑を借りて野菜を育ててみたい
と考える家庭。(幼稚園なども)

家庭菜園の未経験者



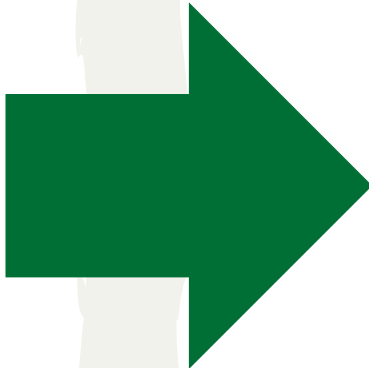
家庭菜園に興味はあるが、日々の管理や判断に不安を
感じている人。

課題

判断が育てる人に委ねられる



作業や管理が負担になる



継続が難しい

コンセプト

支え合いながら、育て続ける。

04.機能紹介

コンセプト

支え合いながら、育て続ける。

- 判断や経験を共有できるようにする
- 成長と人の関わりが自然に見える形をつくる

04.機能紹介



01.判断を支える

気象情報に基づいて
次にすべき行動を通知



02.成長を見守る

入力された活動記録に連動
して画面上の植物が成長



03.地域をつなぐ

ポイントを通して広がる
地域の助け合い

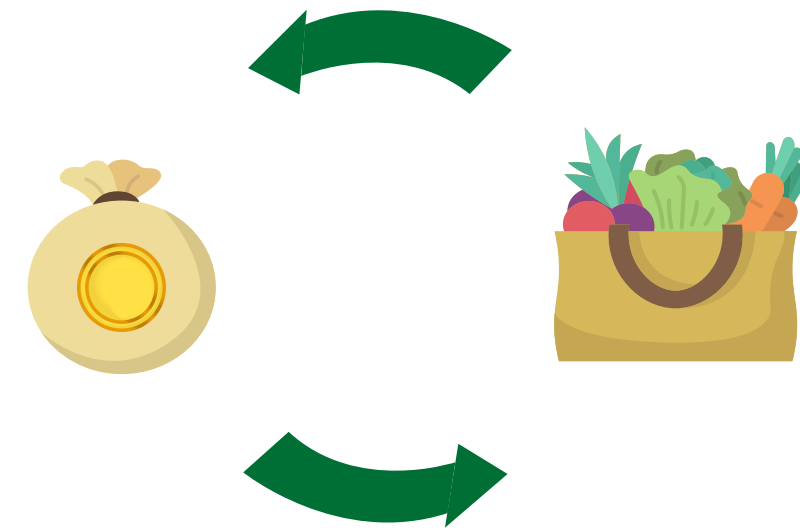
地域とのつながり

お手伝い制度



忙しくて行かなければならない日に畑に行くことが出来ない日がでてくる可能性があります。忙しくても頼れる人がいるということでお世話のハードルを下げたいと考えます。

育てた野菜とポイントを交換



お手伝いしてくれた人にもポイントが付与されます。ポイントは育てた野菜と交換でき、地域内通貨のように利用できます。手伝ってくれた人にもメリットがあるので、みんなで支え合いながら作物を見守れます。

05.利用の流れ

05.利用の流れ



はじめる

育てる場所を登録する



知る

天候や判断を知る



育てる

できる範囲で世話をする



記す

成長や気づきを記録する



ふりかえる

成長過程が見える



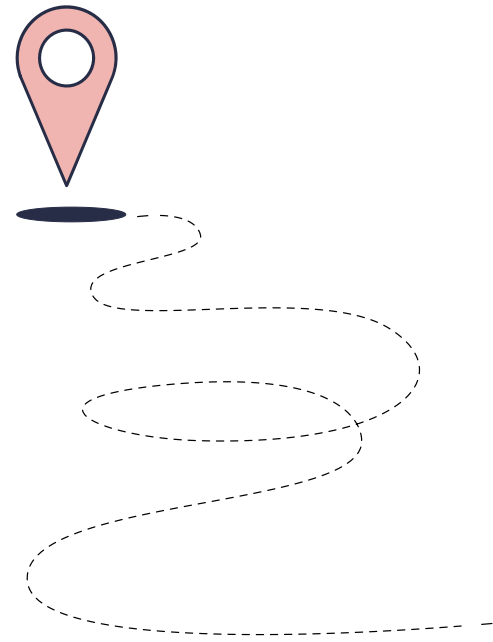
つながる

地域の関わりが広がる

06.最後に ーこのアプリが目指す形ー

このアプリが目指す形

経験の積み重ね



成長過程の可視化



地域との繋がり

